

ぶら研 「すんくじら」 9月

令和6年度 志和池小 校長室から ぶらっと研修 12 9月9日 文責 田爪



先日、子どもの心ない「マイナス言葉」を起因とするトラブルがあり、それを先生が指導している場面を見ました。一通り、指導が終わり、最後にこう言われていました。

「あなたには、……ないところがあるよね。先生は、そこを伸ばしてほしいな。」

こうあるべき → こうなってほしい

子どもたちは失敗をするものです。どう学ばせるかが大切なのだと改めて感じさせられた場面でした。

算数よみごえがスラスラ、スムーズにできるようになり、本人も自信につながっているようです。夏休みからの成果が見られ私たちもうれしいです。

これは、先日、1年生のお便り帳の中にあった保護者からの連絡です。

うれしいですね。

- ・保護者がお子さんのちょっとした変化を見逃さず認めていること。また、そういう視点をもっていること。
- ・担任に、ちょっとしたエピソードを伝えていること、そういう信頼関係にあること。

では、これは…。

「さんすうよみごえ」イヤイヤするので苦勞しています。

これも、うれしいですね。

なかなか上手いかなくても、その過程を楽しんでいるようにも思えます。

保護者から得た、「ちょっといい話」があったら提供してください。(お便り帳や電話、会話…)

6年1組の道徳の授業で使われた「padlet」の画面です。

授業の感想の場面で使われました。

発言の苦手な子どもでも、しっかり自分の意見を述べる機会にもなり、それに対してリアクションがあります。

子どもたちにとって、考えを広げ深めるきっかけになっています。

担任もその場で子どもたちの感想を把握することができます。

「ありがとう」が多いのが印象的です。

子どもたちが自分の考えを説明し合いながら学び合える授業のために、ICTの効果的な活用方法や学習形態の工夫など、情報をお知らせください。